

關東古戰錄

三





關東古戦録卷之三

目錄

一 城戸持廣安房因退去

附 志賀彦助事

二 城戸持廣與山形季照結義

附 石部九左衛門事

三 淡河六房義孝起兵

附 西田計策 兵思策勢敗軍事

四 一色時範書

附 宇津磯之助事

關東古戦録卷三

城戸持廣安房國退去附志賀孝惣事

城戸良左衛門八房州へ立向首尾能仇を討果したる事
を併し加て國主早連の功威を以て番次於城修理を
之に命じ家に仕友し向後忠義を可袖し一室に命下され
ハ城戸名ありて難有公命謹て修仕りぬ退てとて思繼
をめぐりし清清中へま由述べれば修理守之無情の君命
領事延引ありんハ早連の玉抱り今日ハ其一存を以て
將事可延助ハ早く清を爲しと念順にヤルれば
城戸も早見此は心入不後取らる昨日ハ早連由更てヤと
史より古くよめて近鄰のりなきよ仇を打るを志す如
國主の意直を揚ぐるをて回来の意を耐しければ百姓系流

本平

市に飲茶して酒肴を潤て城戸を窺意しゆるされ、里
 尺義光士隊將を召集して鴻基の敗軍骨殖を徹して其恨
 玉極也。刺苗家の後者たる義明討死あり味方寸分の
 勢を打ち北条回天の勢をゆると然れど忠義の兵を起して謀
 の我を打さん、愚將の役をみる所ならず、拵を固めて死守を
 言ん事。法將の矢見をせん所に集會せしとやられ、法將一
 回又平伏して吾るものをありしが、正木大將をみ出せば
 度の敗軍北条家我畧のどとれらるにあたり、味方と我と
 今いそむるは、固て、固皆遠る凡合戦ハ勢に、宋剛
 を好ハ血氣のたれ、而にして、只計畧を思して、これを
 固にして、敵の機を以て、備と死ハ何ぞ大敵に及ぶるあらん
 苗家武勇鋒りて、計略に及ばず、一戦に、我、怪我をぬに、至

る、於ハ謀士を撰て、成事を平くさるる。北条何ぞ恐るるに
 足んと、将をく述ぐれハ、法將を備に、撤し、われハ、我、光、大、の
 感、あ、ひ、汝、が、突、見、苗、家、の、不、足、を、補、ふ、に、た、れ、と、凡、く、ハ、智、謀
 の、士、近、圍、に、稀、あ、る、一、葉、の、あり、とも、下、族、の、り、の、なり、ハ、
 徳軍、必、其、招、揮、に、不、可、徒、汝、亦、友、を、弁、て、謀、士、を、を、て、百、戦
 不、危、の、基、を、立、べ、と、あり、け、さ、ハ、法、將、皆、招、送、せ、討、は、勅、築
 修理、末、席、より、中、け、る、ハ、城、戸、改、所、を、長、石、抱、ら、る、べき、言、中
 せ、し、一、思、急、仕、て、正、清、の、言、を、慮、し、と、の、一、言、由、人、明、明、と
 を、指、揮、せ、し、が、其、辨、苗、家、に、仕、る、よ、ん、か、き、者、に、似、り、強、て
 凶、人、と、せ、バ、必、ま、く、可、を、く、只、賢、急、に、任、せ、慮、し、と、云、に、我、光
 の、曰、城、戸、を、武、勇、絶、倫、あり、我、思、我、を、以、て、臣、と、せ、ん、と、ま、ま、
 ハ、渠、邦、の、苗、家、を、援、て、仕、る、に、心、外、一、葉、あり、と、し、ら、ハ、此、意、の、故

軍を以て我武勇の不足をふけよとて、主人を外に求むべし
又つり、渠領中に出せしめて、尚書の案内をあり、まゝと藩士の
武勇の眞を知るなれば、仕へた、重く可爾不任ハ子
く切捨て、後來の愁を可憐と宣はれた、却統始は後むす地
とすけり、正木押止て賢魚の色而留あるに似せむとも
英士を軍事不結して、敷之と云はれ、天下の徳將の儀
を更、智勇の士必尚多、仕の志を失ん、猶も城戸君の大
患を忘事して、仕るに心なき時ハ、今晩中に尚書を可也と
俥に指せし、賊に後來の害する處、密に力士を指致して、
人不知途津にて切敷さハ、化の消もある、俥とせむ、後を
述べれば、我竟始、後、虎虎の力士八人を撰て、密に出せり
さゝめり、此時城戸ハ、民衆に止者せし、仕友を逃る

の謀なく、不如一通の書指をして、今昔まゝと、國王の恩
を附、武者修行の形、望まて退勇のあやを書記、旅途の
用意をなして、敷よ酒ぎれて立出たり、行先、あもあつれば、
先尚國を予立まんと、是に満くせして、老く、敷里を越て、
饑渴よ及れば、人家に立寄て、休息をせん、と云へる、俥文
に及で、立寄べき家もあつり、が、離るる小家に、打敷、
られハ、心怪で、戸を敲れば、敷、何者ぞと、戸を叩き、立出
るハ、一見あれ、大男刀提て、きつ、何さ、南力士と見
られハ、城戸曰、某、急に旅ゆをな、敷中を馳て、饑渴に及ぶ
一杯の水を玉つらハ、糧食を徳、と云はれ、彼男、お領
旅途の狼狽、是に免あり、幸に湯あり、後と、糧食を調、
べしと、俥て、肉、入、げ、こ、城戸、礼、附、て、肉、入、る、
敷、と

ずしよ増る英雄稱るは、殊に、亦尚國仕友の聖を改め
 れ、いざや一折、立越して討手の奴衆を切散さば、一興を
 るべしと、勇立ハ城戸も、勇を賞てこれを不備、食事
 能潤て、表懸甲冑を常し、鎧を搦へて、先立ハ城戸も、濱て
 立出ハ、不敵あり、有根あり、角て八人の力士ハ渡場
 の相の肉、深遠て、行指し、方近き、口をハ城戸も、人面
 掛ハ、船政を、舟とも、船あふ、されハ、産懸あ、り、残見、也、り、一
 艘の船、陸へ引上げあり、なる、と、えいと、云て、引、り、川へ
 さん、と、浮、り、ハ、城戸、これ、を、か、て、心、地、り、志、賀、氏、と、立
 本の、杖、二、本、を、右、左、の、手、に、握、り、り、月、と、後、て、土、お、ふる、ハ、宛
 免の、構、あり、と、あ、士、船、は、乗、り、れ、ハ、八、人、の、力、士、も、此、物、に、見
 を、登、道、皆、一、回、よ、む、れ、伏、り、城、戸、大、喜、と、て、國、主、家、に、大、喜

あれハ、思、つ、り、て、懸、を、報、ん、と、ま、り、た、武、者、修、行、の、心、掛、未、終
 に、因、て、一、氣、の、胸、を、と、立、ゆ、て、忠、義、を、あ、す、尊、一、と、思、い、に、倭
 氣、の、善、行、あ、つ、て、侍、伏、し、て、志、を、討、ん、と、と、だ、と、ハ、數、百、人、の
 勢、あり、とも、懸、あ、て、あ、ん、に、何、事、の、あ、る、と、き、況、や、十、人、に
 さら、ぬ、討、手、天、下、破、旬、あり、とも、一、く、首、を、奪、り、懸、を、命、を
 助、て、差、を、く、ハ、國、主、の、懸、を、不、忘、而、あり、立、ゆ、て、此、首、を、下、附
 と、云、控、て、風、の、如、く、あ、士、純、と、り、れ、ハ、カ、士、大、福、息、つ、き、伏、し
 も、思、し、き、事、も、も、り、を、此、と、ハ、此、人、ハ、不、承、と、化、て、言、す、
 負、難、を、て、免、と、志、ほ、く、と、り、て、立、ゆ、け、り

城戸持廣と山形季照結縁 附 石部九左衛門事

城戸持廣ハ、志、賀、氏、懸、と、房、物、を、退、て、上、総、國、に、出、て、舟、橋、よ
 て、志、賀、ハ、武、名、よ、あ、る、人、有、て、立、越、ん、と、い、ふ、ハ、城、戸、ハ、下、総

を心掛て交にて里中の酒亭へ入て後味を飲し其に急を
 をゆば書通を以て知せしと。約して彦惣ハ城戸に
 来て立寄り。城戸ハ酒錢を請してこれより。福旅と名
 て中屋の相馬衆の城下に柳の縁あるを頼り急げり。及
 城戸に感して病悩を祈りしれど。脱れを以て急を
 やりしりて中屋に寄り急ぎ縁を求るに。ある者あけし
 ハ城戸に急ぎしりて。氏家にて宿を求む。石部某と云む
 人城戸の顔ねれありさるを見て。旅費病苦を憐れこれ
 止宿かさしめ。茶餌を与へる。城戸其恩を深く謝し。日
 六日を経て漸く氣分は復りしれど。別神を以て旅途に乾
 草不能懐中の御金數を以て。主君に謝ししれ。主人大
 笑て。家衆諷令よあり。何れを價を申し只君の形相只人

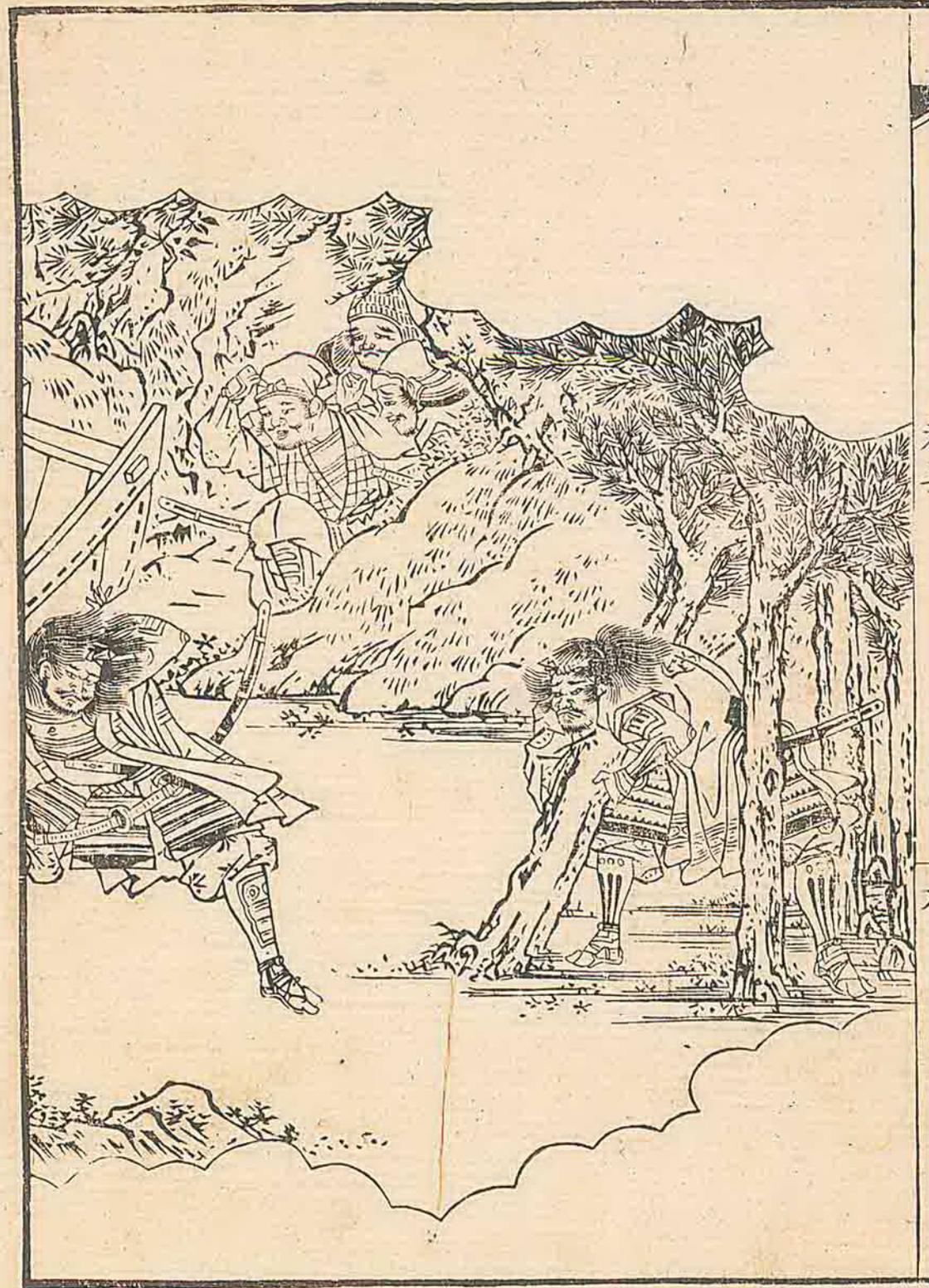
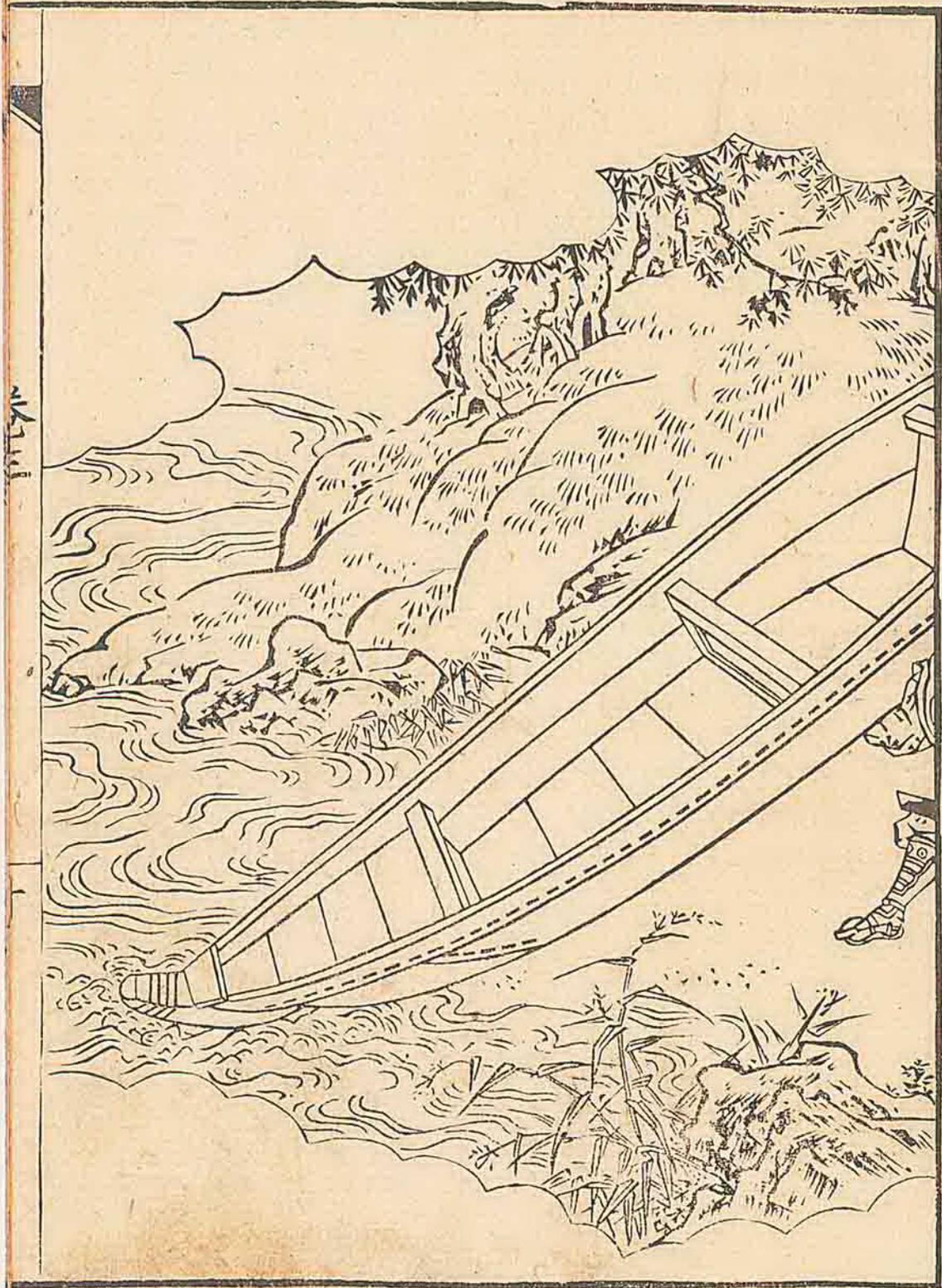
ありさるを愛して。療養ありたるのこ。一子ありて近來他
 國と家もさる。御金全使を以て。一日目を積目を越と
 云ふも心を勞する事あり。舟を差ししれ。城戸
 大に其志を感じ。子家の恩厚謝し。物知り。只寸衷の志
 あり。使く酒をかし。玉へといふ。主人も強て不逆。おして
 更之益心を以て。いさ。りしれ。城戸も。病を以て。不
 月目を送りけるに。一日城外の山。海を以て。當地の那代。お
 治。給。右。侍。つか。島。お。三人一人の旅行の士と。口。海。及。て。彼
 の士刀を震て。三人を切殺ししれ。近村大に強物をす。こ
 云へ。其。勇。威。を。恐。て。逃。付。し。の。か。し。城。戸。此。由。を。以。て。刀。を
 押。込。て。老。行。彼。士。に。向。て。足。事。か。る。備。某。三人の。お。に。母。を。討
 捕。に。来。し。捕。負。せ。よ。と。命。じ。し。れ。ハ。彼。士。大。に。怒。り。て。血。刀。を。振

返て切て掛るを城戸も不透抜命替我しが彼士色掛て
 其殿の太刀討為常にあらずに容貌も見る所あり
 猪首を待と云けらに城戸も此人を能見に面同秀葉
 の勇男にして其にち取れあはるるに似れれば太刀を引て
 争るに彼勇詞をあらためて其前時鴻葉に控て父
 仇を討る英士にあらずやと云ふに城戸手を拍て是下
 ハ其討の馬上の人にあらずる事をいふ不之後の會向我
 ぶ前之士に由緒ある者にあらず是下の武勇を里民感
 賞もた因て試に求のこと爰にて鬪争を止て例直く立
 寄けるに彼士も刀を捨て某ハ山形八郎と中浪士あり生
 其の由一言之懸命を抱て遙に鴻葉の合戦を告て一臂
 の力をゆんと棄けて凡に軍散て其西も敢あく討死われ

いん改使くとして其所の働も感せと云ども姓名を
 与に不意互に別れて今日此處を西に三人の醉狂士種
 くの愚云を吐て某を取しむ斗箭の奴原も侍も拍案
 に果よむして又傷に及よりて不便あがり切捨くと面
 目自若として流されハ城戸も大に感て我姓名を名宗夫
 らるる女士お連て一里餘を歩て小人家に入て錢を与て
 後の酒肴を集て二人或ハ呑或ハ後で在にん舟を流し姓
 氏正しきぬまよ奪て其力をそんと女士の執事符合して
 爰にて我を捨て後事を約して城戸ハ別て立廻り曲志を
 追廻て主行湯を失と欺てさあられ鉢まで居たりたり加
 あがも其の者先女士の我を以て睦く一所に乞しわ
 やを併へられハ邪智横忌の治給た鳥のいふは横渠根籍

都と一連の盜賊にて城中に立て事を謀ると見たり。百捕
 て斬罪し、擧憤を二敵と俄に組子を集けるに、あつその有
 て、城戸が武勇、密く凡人の働にあらざり、切よは捕んとせむ。
 後、人教多くて、換方便て、搦捕んま、不始といふよ。お返す
 吏をめぐりて、先づ士三四人に、令て酒肴を携て、城戸を
 誘ひ、前日、後、稽者この太刀、討凡人の業にあらず、おれ、吾
 く、門人とあつて、ま、術をそまうと念うるに、迷りて、欺ま
 乃を以て、ま、思ふも、後、之、城戸を、武勇に、志あるを感て、
 これを、不拒、家、珍術を、令して、太刀、討、妙、前を、不、始と云とも、
 忘信の、術を、おく、少くも、術を、可、傳と云、家、に、三、士、大に
 悦て、酒を、勧けるに、城戸、十分、に、酔、むて、産、よ、た、へ、さ、る、ま、推
 られ、二人、相、圖の、笛を、吹し、られ、表、裏より、敵、十人、急よ

掛、あ、て、ま、両、足、を、縄を、う、け、り、り、に、城戸、病、後と云、酒、勇、醉、疲
 て、これと、あ、ま、る、事、不、能、免、よ、薄、せ、られ、第一、ま、ま、ま、あ、ま、ら
 いて、ま、ま、を、留、とも、那、代の、命、ありと、言、て、門、立、を、ぬ、お、ま、大
 に、悦、で、妙、計、を、固、く、一人、を、預、さ、す、曲、者、を、搦、捕、多、く、を、音
 ち、れ、と、先、徴、を、よ、と、察、する、城戸、漸、く、酔、ま、めて、心、大に、悲、同
 し、ま、一旦、信、を、失、て、愚、人の、共、計、を、陥、り、不、祥の、因、虜、と、行、る。
 狗、中、の、大、志、偏、身、の、武、術、一、場、の、幻、夢、と、化、して、草、木、と、た、ま、
 朽、去、り、運、の、強、く、む、る、所、何、と、も、な、り、強、く、と、怒、ま、る、眼、よ
 涙、を、揮、ひ、切、齒、悔、り、る、事、一人、の、宰、守、城、戸、ら、を、極、を、こ、て
 獄、中、に、入、て、蜜、よ、や、ける、は、い、ま、を、毫、も、許、さ、ぬ、の、人、なり、那
 代、命、お、を、お、れ、て、怒、を、遷、て、方便、て、い、ま、を、搦、捕、り、刑、を、行、ん
 と、す、一、寸の、傍、り、英、士、の、命、銭、斬、士、の、命、業、よ、わ、く、む、我、れ



を悉く踏併して二人のいゆめ城跡にけられ、加茂甚怒て
 下卒數十人を下知して、法を備て取巻より掛る所に山
 形八尋、岩を城戸羅依に臨るとして、一系に馳付し、此
 旗を見て、ゆたりうし、と、右刀抜持て切立れば、城戸も
 赤れに力を切て、城戸の大戸城引籠て、片場より難立るに
 士勇で二人を引立、立場を急よ立退き、一里計健行て、足を
 休めける所、む人の一子、暫他國へ行て、今日立帰けるが
 父いまいめに就くとて、後に家材を根をるに附て、直付
 て父に對面、大よ悦で、那代某が留まに、父を綁て、それり
 とて、某家材を逃く送りて、慈に父を盗出んと、如女出
 立しに、あ士の勇武よりして、父も大難を、ゆりしとて、跡

城暮て、那れ、城戸山形、向て、厚く恩を附け、此ハ、あ
 英、これを、見るに、健ある勇士、それハ、ま君を、回た、石部九
 清門と、着ふ、交にて、あ英、石部と、交を、あて、暫く、休息、あ
 けるが、次第、あ、加茂、あ、鬼逆、城、深く、憎く、何卒、那代、の家、に
 押込て、これを、切敷し、後、東、人民、の、慈を、可救と、云け、まハ、山
 形、も、大よ、同き、して、三人、よ、別きて、慈、ゆん、と、す、む人、守て、て、
 あ英、の、力に、く、此、城、城、敷し、ま、り、城下、の、人民、子、金、の、物、よ
 増る、べし、然、も、渠、居、も、廣、大、よ、て、楚、忽、に、お、入、あり、慈
 こ、ハ、此、我、を、可、救、と、いふ、に、九、九、清、門、進、出、て、某、久、く、加、茂
 う、生、肉、を、食、ん、事、を、只、お、父、ハ、守、守、と、た、に、此、馬、を、引、て、宮、相
 と、立、り、ま、某、あ、英、と、な、よ、加、茂、う、家、に、至、て、お、果、ん、と、言、は
 変、れ、ハ、是、父、も、ま、ま、に、す、り、せ、あ、英、も、葉、同、者、を、ゆ、て、六

に勢を増し、夜にてお人共勸めり、三人近道の人家に立寄
 て石の酒肴を割て食事をせり、あつくと、身解をこめて
 着せてお屋城下一へ忍びたり、那代の宅人、民をよびよげて
 留まらざれば、搦も堅固あり、石の家の後にせりて、一橋
 の竹よ、すぐるを登れば、撓んで、丈餘の溝を越れば、城戸も
 病後、力重くして、これも竹を攀てお越せに、山形ハ、只一躍
 に飛越たり、石の堀を穿て、内らる切戸を穿きて、お人を守
 入げふ可、搦の内甚廣くして、住居忘れし、石の先に
 立て、高築地にせりて、山形こそ、加藤常の居所、まは、塙を城へ
 ハ、主功をささんとき、山形お鎧て、おの如く、塙を花越して、内
 より、塙城投越しければ、城戸石の、これにお付て、内に入て
 尺ておれハ、築山高くして、怪巖、石、木、芳、橋あり、泉水亦

廣くして、水色、深、渾、濁、魚、躍、依、に、目、行、視、し、ぬ、性、を、養、の、然
 あり、片、糸、より、密、に、窺、ひ、た、か、る、六、七、人、と、若、して、象、殿、を、搦
 飛、り、時、分、ハ、一、と、三人、一、団、に、深、よ、上、り、出、治、部、土、橋、門
 日、の、懸、乃、方、氏、これ、を、恨、む、因、茲、家、々、刑、罰、よ、向、り、と、解
 れ、ハ、加、藤、大、よ、お、ど、ろ、き、怒、て、搦、系、た、る、奴、系、業、肉、を、た、る、真
 座、を、入、也、事、盜、賊、の、然、た、らん、目、に、お、見、せ、んと、立、上、り、し、が
 有、英、を、見、て、魂、死、て、慌、張、り、し、て、お、乃、を、城、戸、を、掛、て、
 腕、を、捕、へ、て、搦、倒、せ、バ、席、上、の、法、士、誘、て、一、回、に、切、掛、る、を、山
 形、石、の、透、乃、行、く、働、て、殊、も、切、伏、り、城、戸、ハ、加、藤、大、御、よ
 搦、を、う、け、て、送、と、白、眼、で、申、け、ら、れ、お、那、代、と、行、り、て、日、夜、心
 民、を、以、て、百、姓、を、苦、む、搦、忍、の、禽、殺、刺、我、高、地、上、暫、違、當、の、因、作
 て、搦、捕、て、獄、屋、に、繋、ぐ、ま、恨、や、る、る、と、今、秋、来、て、お、乃、命

何うも立ち寄べたあてもない。心控て死せよれば、あつた
 神佛の威に、さうせんと、魔まよふて、後身の投函を
 同慶寺本坊まで、封を立去らうと考て、味戸に向て、堂下
 ハ、武具懸懸言の意へ出て、武具を以て、これを可憐一危難
 を免れて、正に、的主に逢へし、即に向て、は、勇ハ、志に、と、只
 に、赴うハ、的君には、よへし、而、後、大、危、難、あり、能、く、法、と、能
 文を、役、死、す、す、た、に、あ、英、お、受、て、的、主、に、逢、ん、事、殊、に、秋、毒、に
 不堪、と、い、ふ、も、遠、く、遠、く、の、危、難、に、逢、ら、る、我、く、行、先、文、危
 難、に、陥、ん、こ、も、相、懸、け、れ、と、浪、浪、を、以、て、御、免、お、免、に、逢、て、一
 先、手、を、か、ん、と、あ、ん、こ、れ、り、道、を、あ、へ、て、立、止、り、二、星、宿
 て、流、交、渡、來、の、集、會、を、れ、何、れ、の、所、ぞ、や

流河、即、我、考、事、西、田、計、策、兵、若、築、坊、敗、軍、事

又、又、武、州、若、洲、の、邊、に、流、河、の、即、我、考、と、云、人、あり、元、來、と、只
 小、役、の、由、取、の、神、あり、た、生、質、大、獲、不、欲、に、し、て、何、卒、自、立、
 て、東、國、を、押、取、せ、ん、と、奉、命、出、て、又、又、任、務、一、懸、に、道、國、迄
 亡、の、士、卒、地、集、て、人、數、二、三、百、よ、及、け、れ、バ、い、さ、や、旗、を、上
 て、先、手、始、に、若、築、の、掘、取、せ、り、城、を、棄、れ、坊、に、棄、り、て、
 尚、國、城、切、魔、ん、と、後、心、の、勇、士、戸、取、強、心、内、田、兵、清、を、召、合、て、
 評、定、る、に、強、心、中、け、り、ハ、大、業、城、起、事、後、援、を、結、和、睦、し、
 て、四、方、の、働、に、手、懸、り、て、計、あり、君、既、に、人、數、を、集、
 て、一、法、候、の、勢、あり、由、良、流、河、相、生、等、皆、親、知、氏、族、を、れ、ハ、就
 士、城、以、て、和、を、通、し、て、向、後、の、力、と、あ、と、へ、し、と、述、け、れ、ハ、因
 田、中、て、戸、取、の、受、取、に、強、り、於、又、精、勇、の、上、を、考、る、に、智
 謀、の、士、多、く、ん、バ、人、數、の、強、引、合、戦、の、上、を、考、る、に、智

上及へ和をなすと謀士成招くと。此お條不全ん。四に終
 成初一冠とあ人の是凡を深河のつくとすては途等凡所
 實に當時の權をありお建人を撰て上州へ可也と。お物念
 以に恐て兵士に命してこれを殺せしめ。密に謀士をある
 に一人あるものあつて。総州に浪士あり。西田侍と号と。
 吾代の軍者ある由あり。城を抱あり。合戦危事あ
 らずとやけれ。深河回。我も彼も。名をすおれり。幸我自ら
 行てて。親と。西田をともあひ。お十人計をたて。密に深河
 へと急し。お廣おへ掛り。時一人の士を盜賊十余人と。
 押しの刑捕んと。ひめくを彼士女も。不恐。大勢を相手と。
 して。忽三人を切倒し。残る奴系。押拂て。お受て。互あるを
 振深河を感心して。同近く。互あて。誘入る。働何人の人よ

て。何まの徳侯の家士あるやと。念ぶりに。殺けれ。彼士深
 河が。形相。為者。あらされ。バ。謹で。某ハ。志。奴。夫。想と。中。浪。人。也
 主人を撰て。仕んと。一。ハ。方に。同。勝。して。未。王。を。不。お。共。く
 月日。送。ると。の。づ。けれ。ハ。西。田。例。より。お。取。の。武。勇。一。流。尚
 予。あり。我。主。ハ。心。に。足。利。家。の。庶。流。深。河。六。郎。と。号。し。大。我。の。企
 む。て。車。を。そ。に。枕。に。近。し。ぎ。所。習。く。主人の家。に。足。利。道。て。一
 臂。の。力。を。ゆ。られ。し。ら。ひ。り。る。た。義。想。再。の。思。慮。に。不。及。お。伏
 して。ら。下。あ。ら。ん。り。深。河。へ。た。れ。バ。我。孝。大。に。悦。喜。あ。つ。と。光
 に。君。臣。の。約。を。お。し。西。田。を。殺。る。あ。や。を。殺。けれ。ハ。志。奴。を。感
 して。當時。の。徳。侯。將。為。大。にして。賢。を。と。と。む。る。ん。あり。君。自
 ら。深。河。を。殺。て。謀。士。を。と。と。む。滅。一。世。の。賢。君。也。某。前。時。西
 田。が。方。に。止。宿。して。た。よ。心。を。預。め。る。ハ。彼。が。智。を。抜。群。を。る

を知るたり。里見家より出る振をいへとも。彼いまさ不決
 思ふは、て城戸次郎太夫。一色太尉九郎の等を、石抱むる
 何故東のこなるん。四海と云とも。怒るる所なり。と述され
 ハ。我孝也。恨恨のこ道より。我越我業。因りて。徳州へおを
 び兒。西國より。友に。立寄て。業肉をて。因り入ま。西國を。成り
 従来り。成りて。將り。事。を。悟。と。禮。を。辱。して。上。堂。に。請。し。
 田。也。の。浪。士。何。の。幸。も。て。君。後。に。先。智。あり。と。謹。て。の。け
 れ。ハ。我。越。を。出。て。流。河。の。氏。系。大。我。の。志。を。身。運。中。より。下
 こと。あり。分。を。悟。り。我。ハ。先生。一。度。世。に。出。て。不。厭。勞。君。の
 創。業。を。助。け。玉。ハ。海。軍。と。中。け。れ。ハ。義。孝。も。我。越。中。け。なり。
 我。是。利。の。廉。潔。に。し。て。不。自。童。國。乱。を。徳。人。の。智。偏。勇。に。寄。て。
 漸。く。黨。を。結。事。教。育。人。に。及。絶。り。も。一。人。法。率。を。不。知。り。て。を。

退を予の謀士なり。先生の需をまて。頼に合。而。我。希。ふ
 こ。云。とも。時。我。不。得。也。度。思。に。堪。兼。て。ま。く。後。に。為。来。ま。り。
 先生。何。率。微。志。を。懐。て。力。を。盡。て。我。助。け。功。業。を。立。し。め
 よ。と。慇。懃。に。頼。け。れ。ハ。伊。豆。ま。ん。と。お。も。考。あ。ら。ま。と。氏。系。心。く
 又。賢。を。も。と。む。る。の。功。ある。に。心。動。て。某。後。ハ。大。馬。の。才。あり
 と。云。とも。君。の。時。計。り。我。戴。た。法。士。の。勇。武。を。う。り。と。我。事。方
 才。に。誓。す。計。畧。を。め。ぐ。ら。ま。バ。東。國。草。の。め。く。た。む。く。事。必
 定。せ。り。今。や。吉。河。の。晴。氏。も。お。友。領。と。合。併。し。て。所。越。の。救。軍
 に。攻。軍。む。北。條。も。て。に。東。國。を。吞。國。茲。城。邑。の。法。將。皆。運。を
 お。端。よ。掛。て。後。ハ。取。我。不。知。也。時。我。を。以。て。人。を。殺。り。し。め。ん
 こ。せ。ハ。法。率。を。後。よ。疲。勞。せ。し。め。て。必。功。を。立。る。に。運。し。我。を
 尔。て。連。和。を。り。時。我。ゆ。て。一。度。動。て。北。常。の。功。を。立。る。時。ハ。

一戦の後園たに可謀と大畧を説するに我者始志が内
 田大に感伏して遂に傳て畧例へ立攻これよりより人馬
 を調練して胆を上げ備城にけられハ士卒皆勇をてよく
 戦に合ん事を敢て我者悦ぶ不堪吾今にしく始て將の位
 成ゆらる事金西田が軍略よりれりとい控心を考てこれ我
 教へハ伊豆も心にまをゆありとて君等とに城戸一
 色より妙き英士を求めまことに日本一の賢人長尾監物と
 云者下野國に隠れ住む一あまをめて所とあり玉く某
 う此死ハ誠は尾石の金玉に對るが如くありんといけられ
 我者悦び先生に増んとの何ぞ海内にあらんや勇士ハ珠
 に可求智士ハ求るに心ありと一國に西田に信被されハ
 伊豆又その恩義に感ハ此君をめて功を立んよ何ぞも尾

が智を用るとに及んと遂に強てあれ我不進一及城戸
 行へをりとむるにも所なきこれハ智因を全人糧食を
 蓋の調略をありけらにぞ自務足林多右書を味墨の如
 繩張して防戦の手當全く近々に勲を多れ法を正し
 けらに百姓等恩を蒙る候初月を迄く考候あり此時急築
 の城を梶原景時が由を考て信長我集て畧例に深河六
 段と云者屯をありて兵戎盡てす物すてに強大ありと云
 傳は物色ハ必高城の害多るべし事連人救を免れて
 我て後の患を可除と士大将胡比奈九郎に三百騎を添て
 備を云版に上げて不意に起て押寄あり意例ハハ事案
 にも急よりしが西田進城へ急る恩を放ち並けるる事
 よ急いそ死を存に傳て此度梶原よりの討兵一戦の始

かきハ、高家たかけの武勇ぶゆう示しし居ゐり。と。子こ配はいをしり。ありける。戸
前とらにあり。先まにあり。して。八十餘人。志し賀が夫とを二番として。七
十人。三番。と。時とき義よ孝たか右みぎ田のに。百余人。靜しずと。押お出しして。
一の森いちのみを。後のちに。あて。戸とら前まへに。没なたに。志し賀が夫と。後のちに。隠かくれ
大將だいしょうの。体ていを。立たつ。器き樂がく勢せい。操そうに。操そうて。押おましり。物もの見み武ぶ者しや。亦また
して。款くわん面めん前まへに。体ていを。立たつ。と。若わからに。較くら比ひ。亦また。亦また。に。相あましして。像さうよ
体ていを。立たつ。一いち番ばん。又また。依よ念ねん某たつ。一いち百ひゃく人にん。進しんと。押おましり。と。此これを
二にの。揚たかげ。ハ。戸とら前まへに。軍ぐん兵へい。同どうく。鯨くじら波なみを。食くら。智ち矢や軍ぐんを。あ。せ
こ。見みける。が。申まをし。り。お。軍ぐん。後のち。先まを。扱あつ。て。突つて。出で。進しん。立たつ。進しん。迫せまり。
本もと時とき。許ゆる我われて。お。陣ぢん。さ。り。と。し。よ。あり。較くら比ひ。亦また。亦また。の。見みましり。つ。て。
款くわん勢せい。小せう軍ぐん。に。て。亦また。に。使つかつ。て。我われを。一いち回かい。又また。押おましり。て。急いそに。さしり。此
立たつ。進しん。迫せまり。と。三さんの。体ていを。一いち番ばん。と。あ。り。子こ雷らいの。後のち。掛かる。如ごとに。去こ。一いち文

字あざに。掛かけ。せ。ハ。戸とら前まへに。体ていを。立たつ。め。ひ。て。前まへ。立たつ。と。せ。り。一いち回かい。又また。の。方
り。志し賀が夫と。想さう。夫と。先まに。を。て。款くわん勢せいの。横よこ合あひ。面めんも。不ふ振び。切き入い
い。志し賀が夫と。勢せい。恰さも。種たね火ひの。如ごとく。雜ま立たつ。えい。色いろ。出で。して。我われに
戸とら前まへに。人ひと。救すけも。脱だつ。死しを。ま。し。志し賀が夫と。に。あ。り。て。切き入いる。に。器き樂がく勢せい
忽たちに。攻こう軍ぐん。して。横よこ筋すぢ。遠とほに。い。る。と。し。り。へ。我われ。孝たかの。一いち軍ぐん。編ひり
と。押お出して。我われ。孝たか。と。し。に。大だい者しや。と。器き樂がくの。人ひと。救すけ。り。り。く。皆みな。け。お。交ま
に。在あり。て。他たを。な。し。事こと。な。し。然しかに。押お掛かて。の。務つと。負お。と。雨あめ。滑なり。よ
れ。や。子こ。雷らい。を。見み。と。と。大だい將しょう。先まに。を。て。遠とほに。出で。て。密ひそ。依よ。を。密ひそ
威か。あ。り。を。ら。ら。ひ。法はう。軍ぐん。い。さ。み。を。あ。り。て。進しん。付つ。て。一いち。進しん。付つ
不ふ。進しん。付つ。八はち。方ほう。へ。我われ。私し。一いち。跡あと。を。も。あ。り。て。進しん。付つ。たり。法はう。軍ぐん。路ろ。に。亦また
て。進しん。付つ。行ぎやう。を。西せい。田でん。揚やう。目め。を。吹ふ。て。人ひと。救すけ。を。引ひ。揚たか。え。の。如ごとく。物もの。見み。武ぶ。者しや。と。し。て
我われ。息いき。を。体てい。の。一いち。勢せい。く。引ひ。た。げ。せ。ハ。分ぶん。列れつ。も。不ふ。知ち。行ぎやう。信しん。の。如ごとく。と

連るが如く。目見えかりけるま配あり。我々墨に立ぬり。人救
を懸換するに味方討死十八人。負三十一人。歎方討死八
十人。負數を不志と記たり。大に西田が智謀を稱嘆をし
夫越深心功を著し。るに。之士相謝して退ぬ。

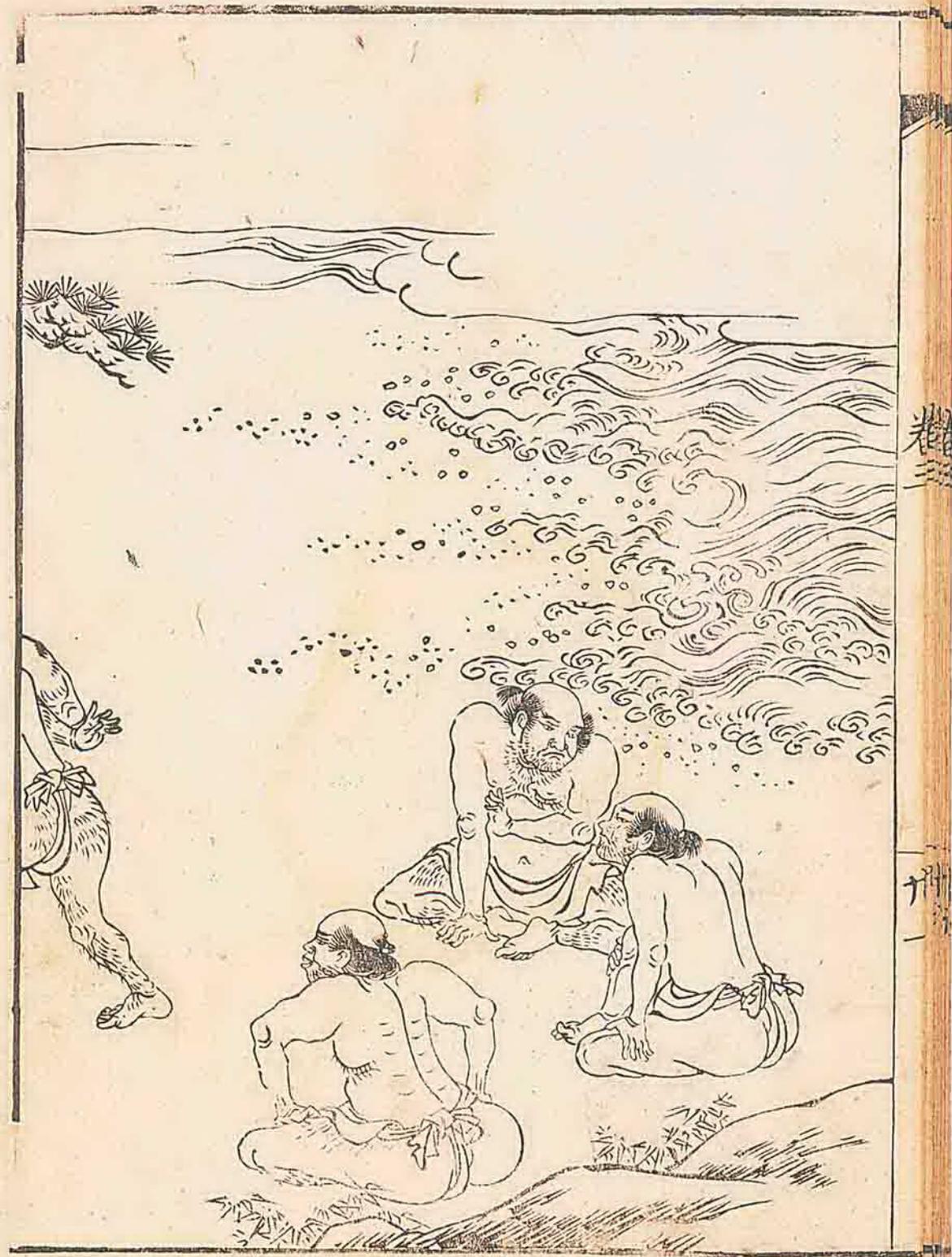
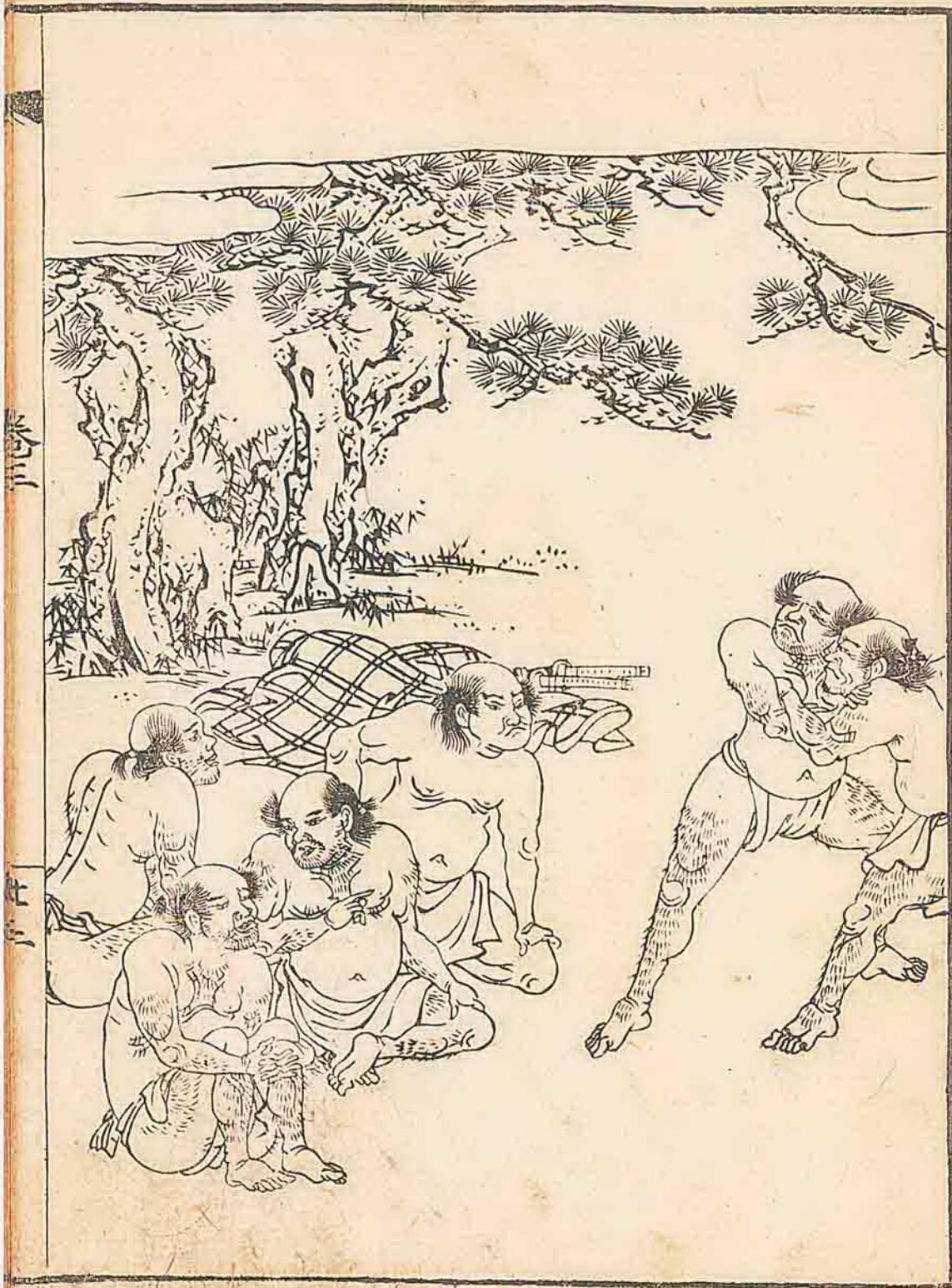
一、この時範嘉慶明字陣破之御事

去程に一色右衛門左衛門ハ西田に危殆をゆられて。武者依
行りて。僅の海根を懐り。風呂敷包を背負て。足にまろ
せて立出。上総國浦田に。舟のちるべみ。我々あして。船を急
き。救急で。曉行。磯へ合。船で。飲。廣東に。伏。山谷に。差を
浴。監。緘の。数。ハ。ん。て。輸。忍。之。極。歎。又。勇。氣。を。さ。け。て。敢。て
害をふと事あり。一日坂下。掛。し。時。お。系。家。の。藩。臣。を。救。え
近と云者。歸。来。と。多。く。し。か。し。て。放。鷹。の。神。に。く。ぬ。り。掛。り。し

に。海。の。例。に。一。色。士。獨。の。あ。き。女。を。使。ひ。下。船。に。雜。荷。を。換。え
休。取。た。り。し。が。を。者。と。見。り。大。に。仰。天。して。女。を。抱。擁。し。て
近。去。ん。と。も。た。近。る。よ。り。下。船。して。お。き。城。捕。へ。し。む。ら。に。
邪。等。數。十。人。近。掛。て。お。人。城。引。さ。す。く。下。船。も。も。り。秘。せ。ず。た
近。怒。て。云。け。る。ハ。汝。止。回。邪。治。大。強。に。し。く。右。を。方。便。近。去。ん
と。す。天。命。何。を。述。ん。不。思。して。面。お。へ。來。る。え。來。を。海。を。臨。に
あ。ら。じ。娘。を。我。よ。ゆ。さ。る。時。ハ。却。て。ま。家。を。知。す。め。ら。じ。や
然。に。密。言。に。そ。む。く。事。自。禍。を。承。る。あり。と。云。士。憤。て。君。控
威。を。以。て。不。義。を。お。さん。と。す。我。娘。既。に。夫。あり。ま。ある。女。我
棄。ん。と。も。縱。令。多。蒙。難。を。あ。る。と。も。然。而。よ。あ。ら。ず。正。に。命。を
お。る。た。び。し。て。命。に。不。忍。と。涙。を。流。し。ま。ふ。よ。を。海。を。以。て。女
が。娘。夫。あり。と。云。其。夫。い。づ。く。に。ある。娘。が。曰。我。夫。同。ま。大。強

に在て歩士たり。何の指る所あらん。左近回、刀一丈たり。ハ
 めこれ又遊んや。歩士をてまたり。とく百もハ越よ。つて
 身をまじし。を放突を合。馬車に合て。人我をせ。一人の罪人
 を事未たり。汝商人等と云。夫と云。ハ。世國人にあ。と。や。親
 子。見て。慌張。お。色。殊。よ。を。舞。也。何。お。に。出。の。國。と。あ。れ。る
 や。た。近。回。世。者。主。君。の。城。内。へ。来。て。盜。賊。を。あ。り。跡。て。右。捕
 たり。新。罪。己。に。極。て。今。自。刑。よ。行。る。我。汝。お。を。不。便。よ。思。入。を
 罪。の。及。入。事。を。計。て。娘。を。我。よ。ゆ。さ。せ。よ。と。云。世。者。男。よ
 里。飛。致。な。り。て。刑。死。よ。及。ぶ。時。ハ。娘。ハ。脱。よ。夫。な。し。吾。これ。を
 指。と。云。とも。何。ぞ。不。義。の。名。あ。ら。ん。や。と。共。謀。巧。言。し。て。適。る
 へ。に。取。り。娘。ハ。夫。の。指。を。見。て。涙。を。通。ん。と。と。れ。た。に。を。割
 て。言。を。吐。事。不。能。互。に。眼。致。通。て。涙。を。流。す。の。こ。歩。士。も。思。念

罪。よ。透。て。卷。を。握。て。認。り。遠。方。島。東。に。命。す。あ。人。の。前。よ。て
 罪。人。を。刑。殺。し。念。を。晴。さ。せ。よ。と。下。急。ま。ら。ん。に。右。手。畏。て。下。部
 に。罪。人。を。引。出。さ。せ。刀。を。握。て。既。地。定。ま。と。一。名。先。別。より。左
 近。が。控。成。を。以。て。あ。人。我。苦。る。を。見。て。心。路。よ。ら。ら。ん。と。て。飛
 身。て。右。刀。捕。の。即。東。を。踏。傳。し。囚。人。を。集。め。て。む。人。殺。を。因
 大。喜。あ。げ。て。我。ハ。武。志。修。行。の。體。人。なり。執。る。の。悲。哀。ん。よ。不
 忍。世。因。を。用。し。たり。有。さ。を。に。世。と。人。ハ。某。に。と。あ。ら。ん。と。し
 万。一。い。ふ。と。あ。ら。ん。ハ。三人。の。指。り。に。某。を。右。捕。へ。右。捕。に。捕
 負。して。左。後。使。く。囚。人。と。傍。お。せ。人。よ。言。け。れ。ハ。左。近。大。と。忍
 を。の。れ。何。者。あ。れ。ハ。罪。人。の。指。據。して。双。向。ん。と。と。あ。ら。ん。に。直。退。べ
 し。と。云。た。れ。た。を。形。お。に。威。を。看。れ。て。立。果。ら。ん。極。る。も。あ。ら。ん。一
 と。笑。て。是。北。の。海。に。も。不。及。三人。我。得。ん。と。あ。ら。ん。大。勢。一。回



に太刀先にて。更なべし。我亦一人して。これを因ん。置ハ夫に
 あり。生ずる方に。とて。二人をなべし。と。眼を死て。立らり。折
 只怒しく。至投。若ん。命。が。を。の。命。亦。人。接。連。て。切
 て。掛。る。一。色。今。秋。も。を。く。飛。掛。て。二。人。の。腕。有。引。抗。て。大。地
 に。う。ハ。と。投。吾。刀。を。接。て。只。一。射。に。四。股。と。打。せ。バ。遠。放。大。に
 膽。を。潰。し。よ。く。二。人。の。者。先。ハ。油。に。お。せ。下。心。の。侍。も。人
 わ。う。へ。と。云。捨。て。馬。乘。中。一。人。數。を。引。連。立。去。れ。右。助。九
 湯。門。跡。見。送。て。因。の。繩。を。解。す。を。命。を。回。ける。に。二。人。地。は。伏
 て。涙。を。流。し。珠。は。君。の。大。恩。天。地。の。間。に。比。さ。る。あ。り。東。走。回
 那。治。と。や。浪。士。に。て。ふ。家。の。仇。肉。は。任。存。か。し。一。人。の。娘。お
 へ。此。者。を。書。き。子。と。して。お。れ。を。書。命。に。家。賣。け。て。替。ハ。去
 年。と。云。大。滝。へ。仕。て。只。親。子。お。人。と。て。替。せ。し。に。遠。放。九。近。ハ

ふ。家。の。冤。仇。なり。娘。を。書。色。に。な。つ。て。む。た。ま。ら。に。奈。ん
 と。す。某。れ。を。成。事。不。能。密。に。房。州。へ。走。ん。と。今。朝。よ。り。旅。途
 に。出。ける。に。不。運。に。して。此。所。に。て。見。出。さ。せ。大。なる。恥。辱。致
 と。是。里。事。に。君。の。力。に。よ。り。て。急。難。を。逃。し。と。云。一。色。亦。塔。よ
 へ。て。ぬ。い。う。も。ま。は。盜。賊。を。な。り。ける。と。云。れ。ハ。此。者。若。て
 某。ハ。年。三。と。や。て。那。治。の。書。子。あり。大。流。の。橋。に。仕。て。歩。士。た
 り。と。云。も。再。之。の。傷。に。よ。り。て。殊。士。に。揚。ら。る。べ。死。肉。這。る
 て。心。恨。び。父。事。に。引。び。て。孝。盡。ふ。と。思。ふ。何。ぞ。盜。賊。の
 業。を。な。さん。然。に。子。家。長。より。某。父。國。政。に。肯。然。大。逆。を。あ。せ
 し。に。因。て。子。年。三。を。流。さ。る。べ。し。と。彼。若。を。以。て。誠。し。世
 是。北。俊。若。族。子。に。流。す。一。が。教。市。擲。て。人。主。の。宰。割。ハ。不。引
 して。だ。近。が。書。に。郷。重。今。日。世。西。門。出。せ。り。某。一。君。の。助。を

くんバ、秋子之人也。業の死を可遂に、突に我良の氏の子
 らんと。之れ、我れバ、一色とゆくとて、徳ハ各々死科をく
 皆を、我れ謀計也。我國を棄れ、事我にあらねハ、程ハ彼を教
 に心なく、至終に逃せしあり。至物我を、至上ハ、逃れてお教
 一、後、東人氏、我を二、救と切教せし、即ホの刃を、りて、平三
 に渡し、家子、我れバ、是弱に、我を、あし、あくに、付、行、べし、皆
 ハ、た、近を、追、掛、んと、縮、出、を、三人、押、止、て、一、旦、有、く、我、は、助
 ある、と、ハ、渠、と、お、果、し、玉、よ、に、不、可、及、む、ら、さ、由、止、り、玉、へ、と、云
 せ、も、再、に、も、い、ま、も、逃、出、る、足、手、矢、の、め、よ、て、酒、使、に、す、形
 も、不、免、三人、跡、を、扱、して、荷、物、を、我、張、房、の、人、と、立、退、を、を、を
 我、れ、近、ハ、奸、計、を、以、て、我、由、を、棄、れ、と、な、り、ける、が、一、色、が、勇
 力、に、支、ら、さ、心、中、同、様、で、奮、勇、も、勇、に、不、降、立、向、ん、と、せ、り、所

一色、縮、嵩、の、如、く、我、付、て、た、近、う、馬、の、尾、齒、を、志、の、く、と、れ
 已、悔、起、已、め、形、ハ、武、士、よ、て、心、ハ、既、ハ、禽、獸、あ、り、一、旦、助、け、ぬ
 人、と、思、つ、も、た、忽、ち、我、謀、を、秘、て、後、に、止、入、垂、て、天、に、代、て、我
 符、を、あ、ら、り、と、ぞ、ん、疾、せ、と、も、る、也、雷、の、如、く、遠、處、大、に、怒、れ
 慄、き、即、ホ、我、を、助、け、の、と、呼、ぶ、れ、ハ、救、す、人、救、せ、て、押、出、
 者、一、色、も、為、方、か、く、馬、を、救、して、大、老、刀、拔、て、右、に、ま、り、せ、て、
 跪、立、れ、ハ、何、う、ハ、こ、り、人、ん、即、ホ、へ、の、と、進、敵、の、り、左、近、も
 歎、ち、て、棄、出、を、一、色、遠、處、に、追、付、馬、の、口、を、引、く、と、も、なる、を
 者、と、引、と、云、て、抜、赤、ハ、切、掛、る、我、引、馳、て、小、徒、と、も、馬、上、り、
 奥、節、し、足、に、縮、て、動、さ、ず、を、看、呼、て、我、汝、と、仇、平、何、の、有、り
 して、角、我、を、苦、ま、し、む、ら、も、弟、一、命、を、助、け、ハ、何、事、も、め、が、望
 に、従、ん、と、云、一、色、も、我、汝、に、仇、なり、と、云、と、も、當、ふ、に、て、我

意を恣にする。方人の愁をなす。汝が恩を報むを得て人を
 恨る事なれ。一足に力を入れてくつと踏む。左近目には
 血を吐て放り。一場拵骨とせぬ。一色足ゆき。馬
 引寄。旅途の足休め。おさんなれ。むらまるとおきて。えのけ
 へ引返さん。とせし。馬に。八方に討の色をよて。忠民兵杖を
 携へ。太鼓を打て。樹る海に。海くたり。城下より。も。一色の
 人救を伸て。武取。赤出。を。敵を殺したる。狼藉。若。討。留。よ
 と。色くに。割て。漸くに。お。色。ハ。一。色。大。に。残。て。は。方。の。人。救。を
 又。方。に。皆。花。揚。を。備。たり。宮。子。道。る。雨。なり。宮。運。奉。の。お。る。前
 ありと。覚。悟。を。か。せ。が。側。よ。寺。門。を。急。度。心。付。て。馬。り。り
 花。を。り。門。の。庭。を。引。宛。て。お。ま。ま。て。背。中。を。掩。て。矢。越。防。ぎ。た
 刀。を。片。身。に。援。持。て。忠。兵。の。む。大。勢。ある。を。目。掛。て。一。色。身。て

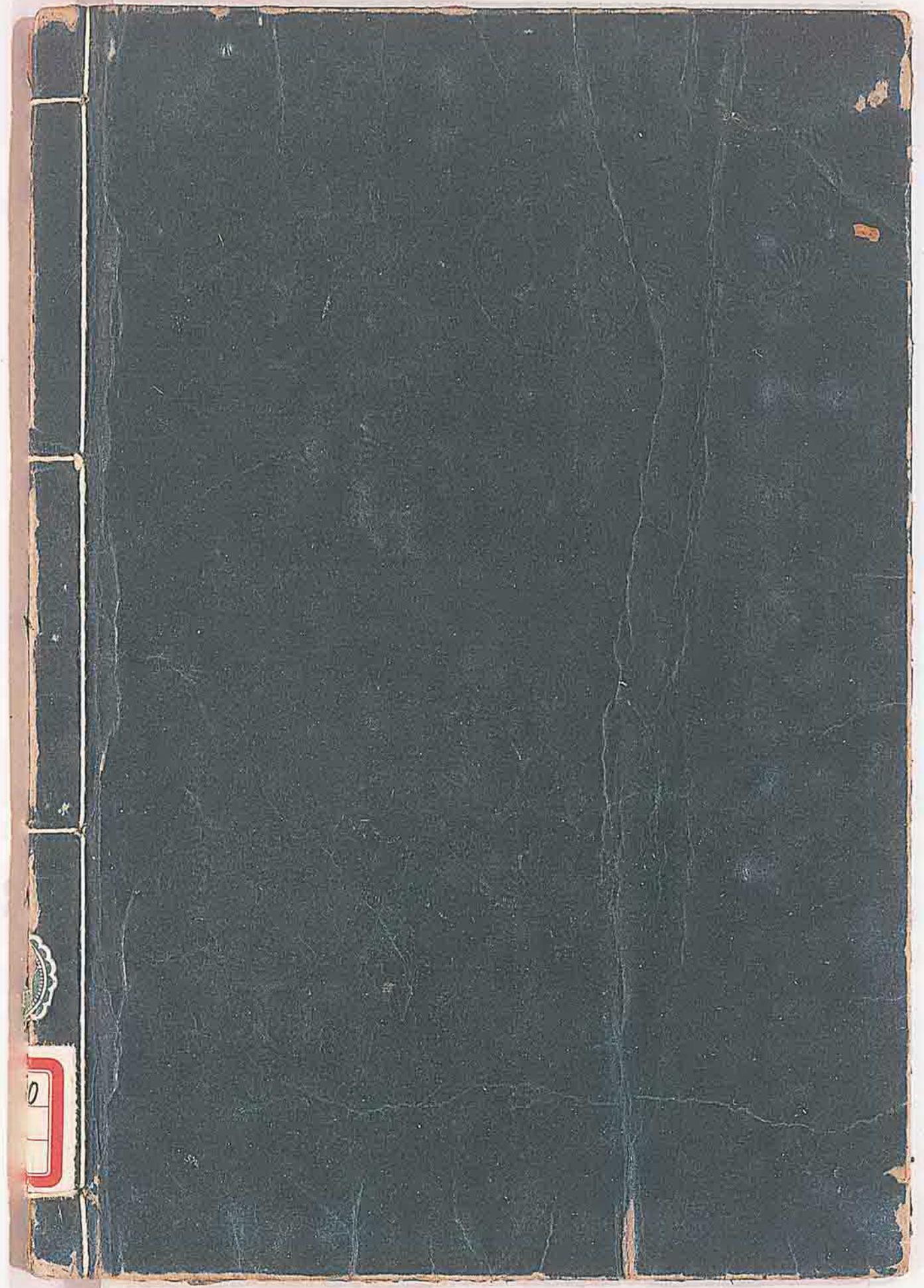
去。暮。に。坊。立。れ。ハ。法。人。大。に。怒。て。人。召。業。に。あ。ら。ず。近。景。あ。て。怪
 我。中。る。か。と。中。を。穿。て。逃。下。り。終。ハ。花。仙。里。に。人。を。救。ん。も。よ
 一。色。一。と。其。地。に。押。送。り。足。に。す。り。せ。て。弛。れ。ハ。漸。く。人。を
 も。遙。に。去。る。を。み。六。里。も。只。弛。に。馳。け。色。ハ。息。切。後。減。し。て。後
 渴。甚。に。お。し。且。日。暮。れ。も。疾。ね。ハ。依。石。の。一。色。も。疲。果。て。い。う
 か。は。せ。ん。と。思。け。る。に。函。に。煙。火。頭。根。に。漬。る。所。あ。れ。ハ。大
 に。悦。で。立。よ。き。ハ。一。の。庵。家。也。立。入。て。見。る。に。人。が。一。庵。主。の
 留。ま。る。に。や。何。ふ。も。あ。れ。一。休。息。を。と。る。と。先。井。に。よ。り
 て。水。を。汲。み。お。れ。を。飲。て。喉。を。うる。を。し。借。因。に。入。て。食。事。を
 する。に。お。し。一。の。鍋。に。芋。を。煮。黄。を。り。一。色。大。に。悦。て。食。之
 忽。に。食。事。漸。後。元。け。れ。ハ。序。幕。へ。出。る。に。床。に。神。担。あ。り。見
 之。に。妙。凡。の。尊。像。を。安。置。せ。り。一。色。信。に。信。を。起。し。て。我。父。母

八府主張て、家ハ西に神皇の代敷あり、故に夢中此語を以
 て示し玉へ也。某考々に、君自仕友を以てめて、危難に處
 しにあらずや。一色大に信伏して、君ハ神人ありと云て、古
 河城下の有指を許すに、お領出後必法侯君を求て臣
 となさんこそせん。是を辞退して、必不可仕。主は後討玉て、君
 求て仕ん、將亦君を求るありん。是功を立名を故の時
 故に、故に一度求て害をぬ、二度彼より求る、勿後三度
 に及でん求お求て、主力を助んとの神命あり。家信て、君
 切に仕友に不可就、この分めに、識文を尋するに、一色信心、膽
 に罷し、依おけて、禮をわし、主救ハ、お看して、翌朝、賊を乞て
 僅の布施を請て、立出あり。主ある、房州へ玉り、里凡の武風
 を親に、名將の制度にて、國民穩に、強壯の海あり。佐費に至

て、海濱にふるに、大の男集て、相撲をなして、主力を争ふ。一色
 面白三幸に、おて、例の本花、風呂布を下し、た刀、刀を執持
 て、大藤廻て、余念なく、見物せしに、勝負、救急にして、一人の
 力士、救才人に、勝誇て、自讃して、互ら、是ハ、一色、伎、術、や、お、
 く、躍出て、各の相撲、目さ、ゆ、く、某、旅行の者あるが、浦、中
 さに、不堪、立出、あり、相手に、な、玉、ハ、れ、と、云、へ、ハ、力士、有、一
 色、の、形、捕、を、見、て、大に、怒、れ、君、ハ、學、ぬ、の、英、士、あり、某、ホ、う、及
 ぶ、西に、あ、ら、ず、と、云、ける、中、釋、一、れ、カ、士、立、出、て、叶、ぐ、の、地、を
 急、と、云、ども、只、後、と、の、相、決、に、相、討、て、主、社、を、可、志、と、一、文、字
 に、死、掛、ろ、残、一、色、十、分、に、担、せ、て、あ、ま、残、カ、士、の、肩、に、當、て、向
 へ、一、突、つ、死、け、れ、ハ、海、邊、へ、三、四、石、投、を、たり、彼、カ、士、漸、に、起
 と、大に、強、て、君、ハ、誠、に、人、同、ま、あ、ら、ず、如、何、が、る、人、あ、る、や、と

乃ければ。一色姓名を魚どけきば。彼士大に悦て。兼て守傳
たる勇士に相見事奉りて。某ハ宇津磯之御と云。浪士也
何卒。英士に因て。出刃の里有り。今宵ハ某が家に止宿お
す。程更武勇此流をなまべと云。一色を悦て。辞退に不
推系して。物語に及んと。互よ交款を恙せしに。折くら雁の
連丸を刀で。磯之御返さるに。守弓を以射之に。一羽の羽を
繼て。一羽の後に立られ。二羽を以地に墜るを。宇津行
て。捉束也。今夜君人の發意しこといふ。一色も仰く。巧勢に
感じて。夫より打連て。宇津の巻に入て。終宵心中を極て。我
を流し。後來明主をひて。古に仕んと誓ひ。二月計面て。右
に。北田守之守付て。乃身一色に。前此恩を謝し。是此に
友へ請り。されば。宇津と古に。玉也けり。を父娘大に悦て。

死を免れ。多る忍人。何城より。子一を謝せん。と極くにも。て
あしければ。一色も歎き。して。竟に。守年余も。友に。誓ひ。徳あ
るべ。誓何れ。孫ハ。旅立して。武州へ。と。趣り。歌子。二人。船く
送て。ゆられ。宇津ハ。數里を。越て。おれを。送る。後。某を。納
て。おれを。まきり。



0